

送 辞

厳しい寒さも少しずつ和らぎ、徐々に春の訪れを感じる季節となりました。このような佳き日に新たな門出を迎えられる卒業生の皆様、ご卒業おめでとうございます。在校生一同、心よりお祝い申し上げます。

卒業を迎えられた今、皆様は、この作新学院大学での四年間をどのように振り返っていらっしゃるでしょうか。入学当初はさまざまな希望を抱き、これからの大学生活に大きな夢を描かれていたことと思います。日々の授業はもちろん、部活動やサークル活動、資格取得のための学習や実習、就職活動、また、多くの友人や教職員との関わりの中で得た経験は、皆様の夢を叶える一歩を後押ししてくれる力になると思います。四年間、楽しかったこと、嬉しかったことだけではなく、苦しかったことや辛かったことなどマイナスに感じることもあったと思います。長きにわたった、新型コロナウイルスの流行により、授業形態の多様化や各種イベントの縮小があり、少しずつ制約が緩和されてきているものの同学年の友人や他学年の学生との交流が少なかった影響で大学生活を存分に楽しめたとはいえ難いかと思われます。さらには言えば、コロナ禍のために大学入学前から不如意な生活を強いられ、皆様の中には、学校生活の楽しみもなく、思い描いたキャンパスライフを送ることができずに歯がゆい思いをされた方もいらっしゃるかと思います。しかし、そんな中、皆様は自分なりに大学生活を楽しみ、まぶしいくらいの明るさを見せてくださいました。今までの当たり前が、当たり前といえない環境と時間を過ごした皆様だからこそ、友人の大切や、困難や制限の中での可能性を模索する意味など、さまざまなことに気がつくことができたのではないのでしょうか。

私たち在校生にとって、皆様は憧れの存在です。大学生活においてさまざまな場面で皆様が私たちを支えて下さったことで、多くのことがらを達成できました。皆様の素敵なお姿を見られることも今日で終わるかと思うと、大きな寂しさを覚えます。学年は一つしか変わらないにもかかわらず、多くの経験を積み、多くのことを学んできた皆様の背中には、私たちの目にはとても広く大きく映り、皆さまのいない新年度四月からの大学生活を思うと不安もあります。けれども、今度は私たちが皆様のように後輩に希望を抱かせ、後輩を導いていく存在となれるよう精進いたします。

日々目まぐるしく変化する社会・世界情勢の中で、夢を抱き続けその実現に向けて進んでいくことは決して容易ではないと思います。しかし、この作新学院大学で得たすべての経験が皆様のかげがえのない財産となるに違いありません。前に進むことが難しくなった時は、この大学で過ごした4年間を、そして、皆様の背中を見て育った私たちがいるということをお出ししてください。

最後になりますが、本日卒業を迎えた皆様へ、心よりお祝いと感謝を申し上げるとともに、今後における皆様の更なるご活躍とご多幸を祈念して、送辞とさせていただきます。



令和七年三月十六日
作新学院大学 人間文化学部
在校生代表 石田 麗來